

あ と が き

石 井 米 雄

当『異文化コミュニケーション研究』第12号の編集に当っては、1998年末に当時の研究所所長、古田暁教授(現神田外語大学、学術顧問)は第10号、第11号と非言語コミュニケーションに関連した論文が継続して掲載されたことから、非言語コミュニケーション特集とするという方針を固めていた。

ちょうどその頃、獨協大学教授の石井敏先生に Issue Editor としてお願いできないかどうかについて打診したところ、同先生から快諾を得た。同先生は日本における異文化コミュニケーション研究のパイオニアのお1人であり、当紀要では第2号の巻頭論文「異文化コミュニケーション研究方法の体系化モデルの構築」を執筆していただいたし、その他に、第10号、第11号で〈文献研究〉として「日本人の非言語コミュニケーションに関する英文文献(1966-1997)」を三池賢孝氏との共同執筆で投稿されている。

同先生は1年間に亘って Issue Editor として、これまでの研究所の方針通り、3人の査読委員による採否についての方法を踏襲していただき、全ての応募原稿に対する厳しい査読と原著者への懇切丁寧な論評、改善案の呈示、数度にわたる編集会議への参加など多大な労をとっていただいた。ここに衷心より感謝の意を表する次第である。

(異文化コミュニケーション研究所所長)